一六　（一八〇〇）寛政十二年七月　松平家家中寒河江家の年中行事〔C〕

寒河江家ニ而」代々言伝ニて」仕来候年中之覚

正月元日

一朝早ク若水為」汲、手」水遣ひ、伊勢より旧」年来り候茶を入レ、」大福茶として家内」一統祝ふ事、雑煮」餅、青物何ニても入るゝ事、」代々之家礼ニて不レ用、田作・」くろ大豆膳之向へ小皿ニ付ル、」同日昼時祝膳、汁平、」やきもの鱠附ル、なます」ハ大さゝかし（笹搗し）大根ニ田作を」切込事、にしみニ者」塩いわし壱疋付ル事、」大笹かし大こん附る事」大江姓の家礼之由、代々」云伝る事也

同二日三日

朝昼、右之通ノ祝膳」之事、雑煮ハ元旦計也

六日

右之通之祝膳之事

七日

朝七種之粥、祝膳の向ニ」黒大豆・田作附ル、但し右之粥の」内へ切り餅入ル事也、今日迄」元日ゟ青物家内ニて」用る事、先祖ゟ堅ク」忌候事、代々云伝

十四日

例之祝膳、飯汁平、」鱠やきもの事

十五日

朝小豆粥祝、畢而常飯祝事（尤此粥焼候時ニ」竈ノ下へ家中の」輪〆たき候事也）

二月

三月　菱餅致事

四月

五月　柏餅致候事

六月

七月七夕、竹二本上机之上へ神酒・茶・」小豆きなこ団子・瓜・ほふづき相備候事

七月

精霊棚飾る事

燈籠寺々へ遣ス事

（尤済米も夫々仏の」多少ニ寄り遣ス事）

辰ノ七月ハ孝顕寺」へ米三升・提灯二ツ、」ろうそく添遣ス、余ハ」森厳寺・永寿寺・」広済寺へハ済米計り壱升ツゝ遣ス、寺銭ハ何レも百銅之事

八月

月見迚、別段月へ備へ」物者不レ致候、夜団子汁」計致来候事

九月

節句ハ栗飯也

（十三夜の月見、八月の」通りなり）

十月

玄猪ハ神酒・牡丹餅、」満利支天へ」献上

十一月

十二月

（八日ニ事納めとて」六しつ汁スル事」也、尤正月八日ニも同断」之汁スル事）

餅春定日なし、煤取」りも定日なし、都而年」始之事取行ふ時分者、」青物るい遣う事堅」無用之事、節分者」福茶とて山升煎まめ」いり、麦茶の中へ入るゝ事、」煤取り之節ハさゝかし」なます・平汁・やきもの」附ニて夜食ニ祝ひ候事

浅漬大こん、煤払のとき駒の爪ニ切り付ル、此日迄浅漬大こん出ス事無用也

一伊勢大神宮御初穂ハ、」青銅三拾疋、是迄献」し来候事、伊勢ゟ来ル」分、のし弐把・御祓弐ツ・」茶弐袋・暦弐折也

一門松代々不レ建事也

但シ、表門・玄関・勝手」口へ者、〆飾計ハ」致ス事

一年神の棚不レ釣、所々」へ燈明不レ上候事

大神宮・荒神・先祖」へ者、備餅・とふめやう（燈明）上ル

一輪〆、家中間毎〳〵」ニかける

一甲子祭り者、当り月」ニ者代々致来候事

但シ、黒大豆めし

とふふ汁

大黒天へ（豆めし　干もの造　酒上ル）

一餅春ニ、家内人別」ニ居り餅、已前者取り」候へ共、近年略レ之、大振り」ニ者居り取り、家内」中兼合ニて事済」ませ候事

〆

右之通、我元清承り伝へ」候分者認置候、右之条」々堅ク代々守り候事」ニ者及申間鋪候へ共、代」々昔より致来り候」分を、子孫ニ也一向ニ」不レ存候も、何やら本意」なく与存シ、無用之事」之様ニ存候而、不ニ相用」候仁」有レ之候も、兎も角」も」、有レ之候、委敷事ハ」、我伯父共ニ早ク別レ候ニ付、」親者他家ゟ相続」致候事故、くわしく者」承り不レ置与申事ニ有レ之候

元清　記

寛政十二年

庚申七月廿三日